

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し、「町と共に歩む」グループホームを目指している。理念の共有に当たっては会議等で理念に基づく運営について話し合っている。	玄関先に理念を掲示したり、会議で話し合う機会を設けて、理念を意識して取り組んでいる。まずは集落と共に活動していきたいと考えており、区長と連携して実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行司に限らず周辺住民と施設行事での交流、散歩等での会話など生活上での交流が継続できるよう自ら屋外活動を行うようにしている。	事業所で夏祭りを開催し集落の方に参加してもらったり、町の作品展への出品・敬老会に出席・どんど焼き・神社の催しで職員が手伝う等、積極的に交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々なご意見やアドバイスを頂きながら、施設での取り組みについての利点を生かしていると考えている。運営推進会議での取り組み方を常に模索していきたい。	行政・地域包括・区長の参加で2カ月に1回定期的に開催し、ホームの現状報告や区長より集落の方の意見を聞かせてもらったり、助言もらう等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期・不定期に地域ケア会議等に参加させていただき、町の担当者等との意見交換を行っている。	町が主催の研修があり、衛生管理・ストレスケアマネジメント・うつ等、様々な研修に参加している。不定期で地域ケア会議があり出席する等、何かあれば連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っておらず、職員らも行動制限や身体拘束等に関して理解したうえで業務にあたっている。現状において身体拘束等は行っていない。	法人内の研修やホーム内の研修で学ぶ機会を設けており、主任が中心となり、職員に徹底している。言葉遣いに注意したり、不穏時には行動制限せず、寄り添うケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や事例検討会等を通じ高齢者虐待に関する理解を深める機会を設けている。職員らの住む地域においても虐待が見逃ごされる事の無いよう協力する事の重要性についても理解できている。	研修や会議時に学ぶ機会を設けている。高齢者の多い集落であることから、集落の方からの相談もある。全職員が利用者だけでなく、集落にも目を向け、虐待防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内部研修を設け定期的に学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては重要事項説明書を用いて十分な理解が得られるよう確認しながら契約締結を進めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口に関して玄関等に掲示し家族等が意見を表しやすいよう工夫している。意見箱については玄関入り口に設けている。ご利用者の意見が表しやすいよう運営推進会議にも出席をお願いしている。	面会時や電話・自宅に出向く等、積極的に意見を聞くようにしている。利用者・家族の希望を取り入れ、居室環境・金銭管理等意見をもらい、サービスに反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議において、職員からの意見を取り入れ課題検討を行っている。日常的にも管理者へ意見や要望が話せるように関係性の構築にも努めており、ホーム運営に反映できている。	人事考課で目標管理している。全職員が会議時に目標を発表し、達成できるよう日々取り組んでいる。管理者・主任はいつでも話を聞く機会を設けており、口腔ケアや低床ベッドの使用・パッドの管理についての提案等意見があり、反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており個々の目標管理を通じて向上心を持って働ける環境整備を行った。代表者は人事考課のみならず書く管理者の意見や要望を取り入れることができるよう定期的に会議を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の定期実施と、外部研修の参加を促し常に自らの質を考えられるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じて、別事業所等と交流しながら自らのサービスの振り返りを行なえる場面を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今期間も新規入居者がおられず具体的な報告は行えないが、不安のないように家族とのつながりの継続に向けて働きかけていきたい。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に限らず、グループホームに入居する事での不安や要望は出来る限りお聞きするようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに際し、ご家族等への利用説明において状況等を確認しながら必要に応じてサービス説明を行なっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩であるという認識を職員は共有しており、慣わしや郷土料理等を通じて職員は高齢者の知識や経験を学ばせていただいている。利用者同士の支え愛を阻害しないよう皆で暮らす事の重要性を認識している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況の報告やご自宅での生活状況の情報提供を依頼するなど関わりを絶たないよう配慮している。必要に応じて家族と外出する機会があるように働きかけている。	家族に面会に来てもらったり、一緒に外出してもらおうよう支援している。家族・利用者がふれあう機会として夏祭りを開催し、お誘いしている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様にとって大切な場所や、知人、親戚の方々の交流が絶えないように、来所頂いた際にお伝えしたりご連絡するなどの配慮に努めている。	昔から行っていた竹ぼうき作りやたくあん漬けをしたり、馴染みの理美容院の方に来てもらうことや自宅に荷物取りに行く等、支援している。敬老会への参加や病院受診の際に知人と会って交流している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮や孤立しないように皆さんと作業を勧める等、個々の関係により様々な働きかけや配慮を行っている。ご利用者同士が助け合い、支えあいながら日々生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に随時インタビューして希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は行動や表情など日頃のケアの中から読み取りケアプランに繁栄できるようにしている。	センター方式を取り入れ、本人の思いが一番としている。日々の会話から情報を把握し困難事例時は会議で取り上げ、本人にとってどの様に暮らす事が最良であるか職員全員で検討している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用したアセスメントを行ない、一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	傾聴第一に、家族より本人のバックグラウンドに関する情報を貰い、小さな事でも聞き流さず、全体像を知る事に職員全員が情報を共用し、継続的に行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を使用して一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状を把握しケアプランに反映させている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア検討会において課題検討やケアの方向性を話し合い、日々の関わりの中で意見や意向を介護計画に反映させている。	モニタリングは1ヶ月1回、アセスメントは年1回利用者主体の暮らしを反映した計画を作成している。家事の役割など日常生活を重点的にモニタリングし、カンファレンスを行い計画に反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践と結果、気づきや工夫を個別記録を記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々々の要望に応じて、併設施設や地域資源の活用に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生員やボランティア等に協力を求めたり、相談できるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療支援を受けられるようにしている。	利用者、家族の希望が基本であり、かかりつけ医に受診することが多い。医療連携ノートを作り、医療機関・ホーム共に本人に対しての気付きを記入し、情報を共有している。複数の医療機関と関係を密に結んでおり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員に体調の変化がある時に情報提供し、相談しながら医療支援を進めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院したときにできるだけ早期に退院できるように、相談員等と情報交換や相談するようにしている。入退院に際しては情報提供等を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される前に意思確認を行っているが、入院等の体調の変化があった場合にも随時確認しながら支援している。グループホームで行なえることについても同様に説明しながら支援している。	入居前の意思確認に沿って、ホームで出来る範囲の支援をしている。隣接するショートでは看護師がおり、緊急の場合は指示をもらえる。協力医との連携体制も出来ており、家族と協力し随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応について研修を開催し、避難訓練等の防災訓練も行っている。	月1回、ミニ勉強会を開催し、緊急時の対応について学んでいる。併設のショートとの連携や連絡体制はあくしており、緊急時に備えている。協力医とは24時間の連絡体制も出来ており不安は少ない。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定、併設施設との共同訓練等、安全に避難できるように訓練を定期的に行っている。	昼夜を想定しての訓練、併設施設との合同訓練・単独での訓練は定期的に行っているが、地域と一緒にやる訓練は、これからである。消防署からの要望があり、一緒に訓練を計画している。	パニックを起こした時の認知症の利用者は思いがけない行動を取る事もあり、繰り返し訓練を行う事により、避難経路の確認、消火器の使用法、又は認知症の行動パターンを身に付け、実践力を駆使出来る様望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉掛けや高齢者への経緯を忘れないように留意している。カンファレンスなどを通して確認しあえるようにしている。	利用者が話しやすい環境づくりを心がけている。職員は、会議時にプライバシーや尊厳に対しての意見が上がるようになり、意識も変わり自覚が出てきた。皆が対等である為の工夫がなされた支援をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、理解できる様本人に合わせた説明を行ない、自己決定をして納得しながら暮らせるよう本人の意思を確認しながら介護している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、どのように過ごしたいか、本人の希望に沿って本人の意思を確認しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿って望む理容・美容店に行っている。衣類についてはご自分でクローゼットから選んで頂けるようお願いしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて役割ができており、調理される方、配膳をされる方、茶碗を洗う方と様々である。調理を行う際に相談しながら作業を進めるなど、できることをして頂き自身の維持になっている。	献立は日頃の会話から、各々好きな物を取り入れ職員が作っている。食事に関する一連の流れは出来ており、下拵え・調理・配膳・洗い物等、1つのリハビリととらえ希望者をお願いしている。買い物に出かけ、好きな物を買ったり、通販で取り寄せたり自由に楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に相談しながら入居者の状態に応じた食事量、水分量の提供と習慣とのバランスを検討しながら食事の支援を行なっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は皆さんに声を掛け合い、居室でケアを行う方、トイレ脇の洗面台でケアをする方など個々の能力に合わせて習慣的に行えている。ブラッシングがきちんと行えない方は介助するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おおよその排泄パターンを把握し、できるだけ自分の力で排泄できるようにお声を掛けたり、定時誘導とするなど個別に支援している。	利用者の誇りを損ねないように、その動作から感知しさり気なく誘導する様にしている。利用者のパターンの把握が出来ているので注意しながら、見守りをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために食物繊維の多い食材や乳製品の摂取、体操等に取り組んでおり排泄リズムはおおよそ整っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望に応じて随時変更したり、提供するなどお風呂を楽しむにしている。	午前・午後・毎日でも、好きな様に楽しんでもらっている。1人でゆっくり入りたいとの希望があれば、危険防止の為、陰からそっと見守りしている。入浴拒否の人は無理強いしない・皮膚の状態観察・清潔保持の支援もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、安心して休息できるように環境整備をした上で介助している。行事等でお疲れになっている時は休息を勧め無理なく生活して頂けるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員間で情報を共有して服薬支援に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、レクリエーションや外出、散歩、外食の支援をしている。お掃除を担当されたり、洗濯物たたみを担当されるなど力に応じた役割分担が出来ている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は入居者の希望に沿って共に出かけられるように配慮している。墓参りや自宅の様子を心配されている場合などはご家族様に連絡し可能であれば家族と共に外出できるように支援している。	近所の散歩・畑作業・墓参りやストレスの軽減の為、毎日行く買い物の車でドライブしたり、自宅近辺を周って来ている。近くの花見、外食等は移動の配慮をしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持、使えるように支援している。預かり金を管理したり、本人がお金を所持したりと本人、家族の意向に沿って援助ができています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙などの通信手段のほか、携帯電話を使用する方もおり、個々の意向や能力に応じて日常的に連絡がとれる状態となっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節に応じて装飾し、装飾品も入居者と共に製作するようにしている。入居者が手入れする鉢植えなども飾り、日々生活するスペースとして違和感のないように配慮している。	利用者の才能も多種多様で達筆な書や絵、俳句等、壁面を賑わし季節ごとに変化を付けている。ゆったりしたソファのある明るい居間には花も飾られ春が近づいている風情を感じさせる、共同空間作りがされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングの他に視覚的に個別空間となりうるよう区分した場所を配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者が家族と相談しながら居室の調度品の配置や季節毎の様式替えを行っている。必要に応じてご自宅から持参される方もおりご本人様にとって生活しやすいものとなっている。	居室には大きなクローゼットが備え付けられ、利用者は、昨日まで大切に使い生活してきたテレビやベッド、タンス等を持ち込んでいる。家庭的な雰囲気を保ちながら自立心を大切に安定した落ち着いた生活が出来ている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印は個々の能力に応じて工夫しており、また入居者の状態に応じて生活できているかを確認している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない